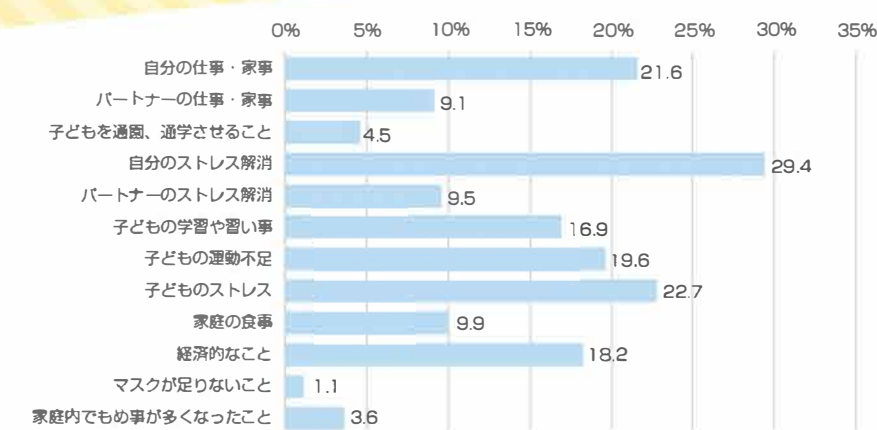


# コロナ禍が子どもたちにもたらしたものの

山梨県に緊急事態宣言が出されてから約1年が過ぎ、子どもたちは学校に通うことができるようになりました。しかし、まだまだ不自由な生活は続いていて、子どもたちへの影響が心配されています。エコチルやまなでは2020年10月下旬から11月にかけて、エコチル調査の追加調査として「新型コロナウイルス感染症によるこどもの生活面、心理面への影響に関する調査」を実施しました。エコチル調査に参加している4,077組のお子さんと保護者の皆さんそれぞれに質問票を配布し、保護者2,296人(回収率56.3%)、小学生2,005人(59.8%)、園児456人(63.1%)から回答をいただきました。そこから見てきたコロナ禍の子どもたちの様子や保護者の皆さんの悩みなど、一部を抜粋してご紹介いたします。皆さんと一緒に考える機会になれば幸いです。

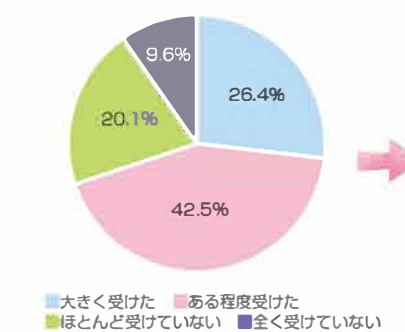
## 保護者への調査より

### あなた(回答者)は今、困っていることがありますか(複数選択)

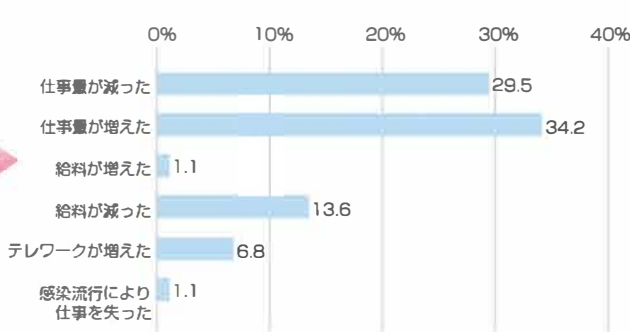


保護者に「今、困っていること」を聞いたところ、「自分のストレス解消」が29.4%で最も多く、次いで「子どものストレス」22.7%、「自分の仕事・家事」21.6%の順でした。「子どもの運動不足」や「経済的なこと」を挙げた人も2割近くいました。

### あなた(回答者)の仕事(家事を含む)は新型コロナウイルス感染症によって影響を受けましたか



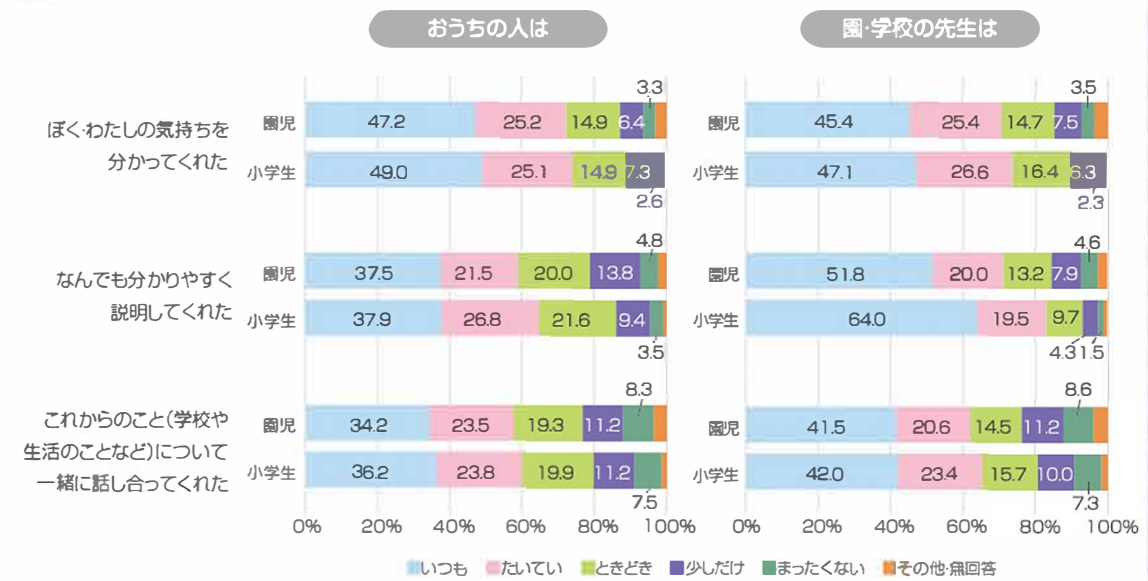
### 具体的にどのような影響ですか(複数選択)



回答した保護者(98%が母親)の仕事への影響(家事を含む)については、「大きく受けた」人が26.4%、「ある程度受けた」は42.5%で、約7割の人がコロナ禍の影響を受けていました。具体的な内容については「仕事量が増えた」が34.2%で最も多く、反対に「仕事量が減った」も29.5%いました。また、13.6%が「給料が減った」と回答。「仕事を失った」人も1.1%いました。

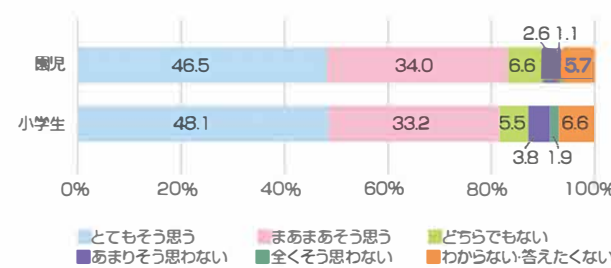
## お子さんへの調査より

### コロナで変わった生活を思い出して、いちばん当てはまるものをそれぞれ選んでください



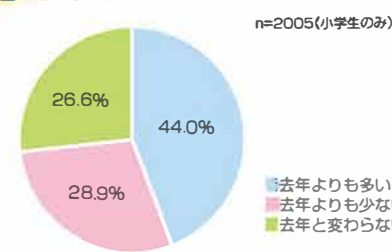
約7割の子どもたちが、おうちの人や先生は「いつも」または「たいてい」、「自分の気持ちを分かってくれた」と回答。新型コロナウイルスのことやその影響などについて、「おうちの人や先生がなんでも分かりやすく説明してくれた」と感じている子どもは約6割、「学校の先生がなんでも分かりやすく説明してくれた」と感じている小学生は83.5%以上でした。約6割の子どもはおうちの人や先生が「これからのことについて一緒に話し合ってくれた」と感じている一方で、「まったく話し合ってくれなかった」と感じている子どもも7~8%いました。

### 子どものことを決めるとき、大人たちは子どもの気持ちや考えをよく聞いてくれていると思いますか

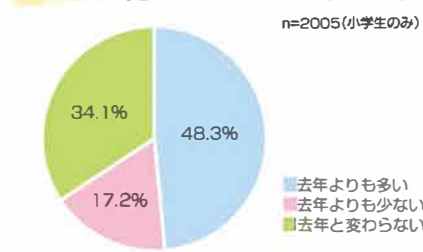


子どもたちに関するものごとを決める時、「大人たちが子どもの考えを聞いてくれる」と感じている子どもは8割を占めました。一方で、子どもの約5%は「あまりそう思わない」「全くそう思わない」と感じていました。コロナ禍の制限された生活の中で、今までのように遊べないことに不満を感じているのかもしれませんが、「何がしたい?」「どうしたらできるかな」など、親子で話し合ったうえで、子ども自身が選ぶ機会を作ってみることが、子どもの自信につながるのではないのでしょうか?

### 最近1週間どのくらい体を動かして遊びましたか



### 最近1週間1日のうちのどのくらいテレビやスマホを見たり、ゲームをしたりしましたか



去年と比べて、体を動かして遊ぶ機会が減った子どもは約3割、テレビやスマホを見たりゲームをしたりする時間が増えた子どもは約5割いました。スマホやゲームの長時間の使用は、集中力の低下や睡眠障害などと関係することが報告されています。長時間使い過ぎないように気をつけましょう。

## コロナについて、大人たちに伝えたいこと

「もし、コロナにかかった人がいても勇気つけてあげたい」(小1・女子)

「コロナのなかおとなたちはわたしたちをまもってくれてありがとうございます」(小1・女子)

「コロナにまけるナ!」(年長・男子)

「おとまりはいくがしたかった」(年長・女子)

「かんせんよほうのために子どもがんばるから、おとなたちもきょうりょくしててください」(小3・男子)

## 研究担当者のメッセージ

お忙しい中、調査にご協力いただきましてありがとうございました。学校や園の再開後も感染症対策のための制約や仕事への影響で、親子ともに不満やストレスを感じている方が多いようです。困ったときは一人で抱え込まず、誰かに話したり相談したりしてください。保護者がストレスを抱え込まないことが、お子さんの成長にとっても大切なことです。今後も新型コロナウイルス感染症の影響について調査を続けていきたいと思っておりますので、引き続きご協力をお願いいたします。

甲信ユニットセンター 特任助教 堀内清華(小児科医師)